

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	町の一員、町の宝として尊敬し、安心、満足、信頼を提供できるように理念としケアに繋がるよう努力している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティング時に全員で唱和している。事例を理念と照らし合わせながら話し合い、理念の確認を行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	面会時や家族懇談会の時に話し合っている。月1回発行の「ふれあい通信」に掲載し状況説明を行っている。運営推進会議でも取り組みや活動報告を行い理解していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関周りにガーデニングを行いガーデニングを通して気軽に声をかけていただいたり、大きな表札でホームの存在を知り、パンフレットが欲しいと言われたりと、引越しし一年になり、徐々に地域に溶け込んでいっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭り等の地域行事に参加している。校区の小学校の文化祭や発表会等にも参加している。地域の消防団とも交流がある。		
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方へ介護相談の案内を配布したが、今のところ相談はない。今後も継続して行い、その為にも職員の介護力の向上が必要であり努力している。		地域貢献について話し合いを行い継続して行えるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容を把握し出来ていない点を見直しどのようなケアに結びつけ目標とし改善できるかを話し合い取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	活動の報告(予定も含め)を行い家族や地域の方から質問や意見を頂き、その内容は全家族、全職員に報告している。職員全員で今後の対策等を話し合っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から業務や人事、運営推進会議の内容など「相談」という形で頻繁に市担当者で面談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域で行われた研修に参加するなど学ぶ機会を増やしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を設置し虐待予防、防止に努めている。又勉強会を行い、意見交換を通し虐待に対する注意を深めるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、書面に添って説明し理解納得がいただけるようにしている。入居後も説明を必要とされる場合、新しい取り組みがある場合は十分に説明している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や外部の方も提出しやすいように玄関の脇に意見箱を設置している。「気軽に意見を出せる」「何でも言える」雰囲気を作れるようにし、職員との関係性にも留意している。又、家族からも利用者からの意見がないか伺うようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態、日々の様子などは、毎月「ふれあい通信」で家族に報告し、状況によっては電話で報告するなどの対応をしている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や懇談会などで意見を頂き不満、苦情に対しては緊急ミーティングを開き対応できるようにしている。意見箱を設置しより多くの意見が伺えるようにしている。苦情受付簿を作成し、閲覧できるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開き、意見や提案を聞くようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1ヵ月分の勤務表は作成しているが3:1の人員配置数にこだわらず、職員の増員の調整を含め必要に応じた対応を心掛けている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため移動はないが、離職希望者に対しては話し合いの場を持ち、離職せずに済む方法を一緒に考えている。		
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し手生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている	職員の募集、採用にあたり性別や年齢を理由に採用しなかった例はない。職員に対しても、様々な権利が十分に保障されるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	過去数回、全職員に人権についての講習を受講させている。ビデオによる学習も取り入れている。又、お一人おひとりにとって、どういことが尊重になるのか、その方にとっての尊重とは？ということを考えミーティングで話し合っている。	
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修の案内をし、希望者には勤務の調整・研修費用の負担も含めて薦めている。又月1回勉強会を行い、個別での勉強会も行っている。	
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームと運営者で調整中である。	地域のグループホームと交流ができ、勉強会や行事など行いたいと思っている。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者と職員が定期的に個別に話しができる環境がある。又、親睦会で会費を徴収し、不定期ではあるが親睦会を開き悩みやストレス軽減を図っている。	
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回「人事考課表」を元に、運営者と個別面談を行い、職員の実績や努力を評価している。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでは家族からの相談が主であるが、入居後は家族の相談内容と利用者との見解の相違を言動・行動から見極め、利用者に対するケアに重点を置いている。	
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時は困りごとが主になりがちだが、どのような対応が良いのか答えに近づけるようにしている。入居時はフェイスシートに添って何をホームに求めているのかを見極めるようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援が本当に必要なのかを見極め、助言し本当に必要であれば紹介している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の馴染みの物をなるべく持ってきていただくようにしている。生活の場の変化によるストレスへの働きかけ、不安に対する支援を一番最初のサービスとしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	様々な角度からの見極めを行い、様々な場面からの発見を大切にしている。介護者が自分の価値観に当てはめることなくその方なりの事柄を受け止めている。職員間で意見交換を行い必要な事柄を見極めながら信頼関係を築いている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族をうまく巻き込みながら、家族の持つ「後ろめたさ」を感じさせない関係作りをしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にしかわからない苦勞を受け止め、今を大切に、以前のことや現在のことを話しながら、お互いが「話せて良かった」と思っていただけよう、関係性を強める努力をしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンを通し、連絡を取っていただいたり、面会に来ていただいたりしている。馴染みの場所へは、ゆっくりと家族で一泊旅行などへ出かけられている。		今後は、職員同行での馴染みの場所へ行けるように行きたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話の時間を大切にしている。気が合わない方同士は、席を離したりしているが、会話を見守りトラブルになりそうな場合のみ助言している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	時候の挨拶の手紙などを送付し連絡を取り合い、気軽に遊びに来ていただけるようにしている。退去後の変化や相談事がないか伺うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>まず利用者を知ること基本とし何を必要としているのかなどを見極め、見えてきたことを職員間で話し合いケアに結びつけている。</p>	
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に生活歴や生活環境、サービス利用があれば経過等を伺っている。一つの事柄に対し、違う角度から見た問いかけを繰り返すことにより見えてくるものがある為、面会時や家族懇談会の時に繰り返し伺うこともある。</p>	
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>センター方式のアセスメントシートを利用し、利用者の見極め、職員一人ひとりの気づきを大切にしている。記録方法を改善し総合的に把握できるように努めている。</p>	<p>記録方法を改善したばかりで職員が戸惑っているため説明を繰り返し記録の大切さを学べるようにしていきたい。</p>
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>立案・プランの見直しの際はBS法を取り入れ全職員で話し合い、家族にもプランに対し意見がないか伺っている。</p>	
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化により対応している。家族にも連絡をし、全職員と話し合い内容の検討を行い、計画を作成している。</p>	
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個別記録やアセスメントシートに記入し情報を共有しケアの工夫に役立てている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	准看護師を配置し、医療面での連携を密にしている。リハビリが必要な場合は近くの病院に受診できるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通し、意見等をいただきながら協力関係を築いている。また毎週ボランティアの方に朗読をお願いしている。地域の消防団とも交流がある。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ケアマネジャーは「くらし介護支援専門員協議会」の会員であり、話し合いの場を持てるようにしている。また利用できるサービスの情報を得られるようにしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターと協働している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者・家族が希望する主治医との関係を大切に、持続できるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の医院ではデイケアも併設されており、認知症に対して多くの症例等把握された医師である。良い協力体制がとれており、指示や助言を受けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師である職員に24時間相談し対応している。又、毎週同じ看護師が健康管理のために往診にきている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医や看護師、家族と相談しながら退院の時期を決めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナル期介護についての説明を行い、家族から同意書等頂いている。又、状況の変化に伴い、その都度話し合いながら方針の決定を行い、その情報を主治医・全職員で共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	准看護師を中心にチームでの支援のあり方を話し合いながら見極めて行っている。今後の変化、考えられる事柄に対し勉強会を行っている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	支援の方向性が変わることもあるが情報提供が必要な場合は、より多くの情報提供ができるようにしている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方にとってのプライバシーとは何かとの視点に立ち、言葉かけや対応を行っている。プライベート性の高い書類、記録類は来所者、利用者の目につかないよう事務所に保管している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の能力の見極めをし、介護者の自己満足に陥らないよう納得させるのではなく気持ちの切り替えがうまくできるよう支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団の中においてお一人おひとりのペースを崩さないよう感情を見極め、QOLを高めるよう努力している。又、生活を送ることに対し、意欲を高めていけるよう努めている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の気持ちを汲み取り、その人らしさに重きを置き、本人の希望を大切にしている。本人希望の美容院に行ったりしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLの違いにより食材切りや後片付けなど分担している。食事内容のリクエストを聞いたりしながら献立を作成することもある。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌をしたり、食べたいおやつを自らコンビニに買いに行き用意する方もいる。喫煙に関しては場所を決めているが自由にしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パット、オムツに頼らないケアを目指している。排泄パターンを把握し自然な声かけを心がけている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日の設定はなく毎日入浴できる。午前・午後の好きな時間に入浴しているが夜間は行えていない。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	リビングの消灯時間は20時頃というその日の状態で消灯している。各居室の消灯時間は決めず利用者の入眠時間に合わせている。休息は他者との関係性も考え必要時には、居室へ誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	五感への働きかけを大切にしている。生活歴に合わせた役割を持っていただきながらどうすれば気晴らしになるのかを考えながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はどこに置いているか「無くした」「盗られた」の時のためによく置く場所、隠す場所を把握しトラブルを避けている。買物や外食時は利用者自身にレジでの支払い、お釣りの受け取りをしていただきお金を使う感覚を忘れないようにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	曜日を決め外出しているが、希望があるときには外出している。近くの商店街やコンビニへ一人で自由に外出される方もいる。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	リクエストにより行き先を決め集団にはなるが普段行けないような遠出の外出もしている。家族と旅館へ行かれる方もいる。		
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人持ちの携帯電話を居室内で使用し家族、友人と話している方もいる。本人の写真入りの便箋を作成し手紙のやり取りをしている。字を書きたがらない方は時候の葉書を出す程度になっている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はなく、家族は自由に気軽に訪問している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解できるよう勉強会を行っている。身体的・精神的拘束をしないよう理解を深めケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解できるよう場面場面で説明している。ミーティングや申し送りなどでどうするべきだったかを考え、どうするべきかを話し合っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	監視・観察といったイメージではなく、したいようにしていることを見守り、必要な場面では手助けし支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	行動パターンを知り、物品の保管場所を変えるなど工夫することを心がけている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを使用し全職員で話し合いを行い一人ひとりの状態に応じた事故防止に努め、リスクに対する理解不足の職員には、理解できるよう個別に話し合っている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会は行っているが、定期的ではない。		全職員が、初期対応が出来るよう研修への参加などは行っているが、定期的な訓練、勉強会を開いていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災における避難訓練を1ヶ月に1回行っている。		あらゆる災害に対する避難訓練を行っていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	予想されるリスクの高いことに関しては、家族と話し合い対応策に意見を頂きながらケアに結びつけている。		
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色、食事量、行動の変化、利用者の言葉にならない訴えに対し気づきができるよう心がけ、申し送り時に報告したり、連絡ノートや個別記録に記録し情報を共有し対応できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、誤配がないよう、名前、日付、服用時間を3回確認できるようにしている。利用者に薬を見せながら、名前、日付、服用時間を唱和し服用支援している。		薬の内容、効能の把握を全職員ができていない。服薬の大切さと薬に関する知識を全職員に徹底していきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に対する勉強会は行っている。水分摂取量や繊維質の多い食品を摂取できるよう支援している。散歩や掃除など適度な運動をし、必要時には、腹部マッサージを行っている。		高齢者の身体の特徴や疾患を熟知することができるよう今後も勉強会を行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、声かけ、見守り、介助と必要に応じた対応を毎食後行っている。必要時には、連携先の歯科医師に相談している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が一年間分のメニューを作成している。水分表を作成し、水分量に気をつけている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成している。消毒薬を常備し使用している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具等はハイター・エタノールで除菌している。食材は賞味期限に気をつけ、購入日の日付を記入し、確認しながら調理にあたっている。		
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	わかりやすいように大きな表札を掛け、玄関周りはガーデニングをし、親しみやすく出入りしやすい雰囲気になっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、ロールカーテンで光の調節をするなど不快な光がないよう気をつけている。不快な音にならぬよう職員の声のトーンにも気をつけている。季節感を取り入れるため季節の花を飾るようにしている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに集まることが多いが、エレベーターホールにベンチを置きそこで過ごすこともできるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人らしい生活を続けられるよう在宅時より使用していたものを居室においている。利用者の心の居心地の良い場所となるよう気をつけている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夜間など気温差に気をつけ、エアコンも必要に応じて温度調節しながら使用している。気になる臭いがないようゴミ捨てはこまめに行い、常に換気に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに隠された身体機能低下に結びつかないよう気をつけている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「～はいけない」という否定から始めないケア努力をしている。自立の形は「身体的」「精神的」と様々であることを全職員で話し合い一人ひとりへの支援を行っている。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ガーデニングを行い水やりや収穫など楽しく行っている。ホースではなくジョーロを使うなど身体機能にも配慮している。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームは、グループホームとしては、珍しく市役所、商店街、病院にほど近い市街地に位置しており、通院、散歩、買物など便利であり、その利点を活かした生活を送っていただいている。週1回のドライブでは季節ごとの景色を感じ、戸外での良い刺激を楽しむことができている。認知症ケアの可能性を職員が楽しみながら知る環境であり、より質の高い認知症ケアを目指している。また、音楽療法を学んだスタッフを中心とした「音楽を楽しむ会」では利用者の笑顔が絶えない。利用者、職員にとって居心地の良い空間であり、ホームである。